

市政レポートは、市議会定例会の翌月（1, 4, 7, 10月）に発行しています。

## 今年足利市長選挙

現職の吉谷市長が今季限りで勇退されることになりました。これにより、今春に予定されている足利市長選挙は新人による争いとなります。吉谷市政を継続するのか、それとも方向転換するのか、こういった政治理念を持った候補者でてくるのが注目されます。ただいえることは、誰が市長になっても今の本市の舵取りは大変だということです。人口減少などによる収入減に加え、少子化・高齢化などによる負担増、さらに昨年未からの世界的な不況が追い打ちをかけています。こうした現状を踏まえ、候補者がどのようなマニフェスト（市民への約束）を提示してくるのか、その中身に注目したいと思います。

## まずは選挙に行こう!!

昨年11月に行われた栃木県知事選挙の投票率は32.28%で、本市は25.19%しかありませんでした。有権者の4人に3人近くが棄権したわけです。確かに結果が見えていた選挙だったので、面白みはなかったでしょう。しかし、個人的な思いとして、選挙は白票でもいいから投票すべきだと思っています。白票も棄権も候補者のいずれも認めないという点で、結果は同じといえるかもしれません。しかし、政治参加の点で全く異なります。投票は政治参加のはじまりです。それに参加してはじめてその後に行われる政治についても、物申す資格があるといえるのではないのでしょうか。選挙にも行かずに政治に注文をつけるのは、無責任だと思っています。まずは選挙に行くこと、棄権は意思表示などではなく、自らの政治参加の権利を放棄する行為だと思っています。投票が政治参加のはじまりです。



### 織原 義明（おりはら よしあき） 略歴

- 1965年 足利市生まれ/西小学校、第一中学校、足利高等学校を経て
- 1989年 山形大学理学部地球科学科卒業
- 1990年 一般企業に入社 塾講師、制作、企画営業を経験
- 1996年 科技厅（現文科省）主導による地震予知研究プロジェクトに参加  
理化学研究所研究員
- 2003年 足利市議会議員に初当選
- 2007年 足利市議会議員に二期目の当選、建設防災常任委員会副委員長

# 12月定例会一般質問より

## ◆ 交流による活性化策について

### <質問内容>

足利・名草ふるさと自然塾の体験プログラムとして、足利工業大学と連携して太陽熱による調理（ソーラークッカー）体験や環境学習などを取り入れ、他のグリーンツーリズム等との差別化をはかり、首都圏からの参加者募ってはいかがか。

### <市側答弁>

PR方法なども併せて、今後その可能性を検討してみたい。

### <質問内容>

他都市の小中学校から足利学校への来場を増やす策として、例えば論語素読体験を組み入れた見学プランなどを売り込むのはどうか。

### <市側答弁>

論語素読体験を組み入れた見学プランは、前向きに検討したい。ただ、講師や施設の問題もあるため、それら諸問題を解決する必要もある。

## ◆ 旧西小学校跡地活用について

### <質問内容>

庁内検討会議による活用案の資料には、廃校処分取消訴訟における和解条項にはない「歳入確保に配慮すること」との文言が、あえて加えられている。この文言を見た後、各案における歳入と歳出の資料を見れば、歳入の多い案が良く、歳出だけの案はだめと考えるであろう。見る人を誘導するような資料をなぜ作ったのか。

### <市側答弁>

別に誘導するつもりはなく、庁内検討会議における結果を示したまでである。

### <コメント>

歳入だけを考えて、既に多くの地域住民に利用されている体育館や校庭を潰してしまう案は、同地区の地域コミュニティ衰退につながるであろう。地域コミュニティの衰退は市の衰退につながる。市はそこをどう考えているのか疑問である。

### <質問内容>

全市的な視点に立つなら、旧西小学校跡地の活用は単独で考えるのではなく、足利赤十字病院移転後の跡地や競馬場跡地など、近隣施設の活用策とも連動して考えるべきで、結論を急ぐ必要はないのではないか。

### <市側答弁>

確かに近隣施設のこと考えるべきであろう。また、全市的な視点も地域コミュニティもいずれも大切であり、拙速に結論を出すべきではないと考える。

## \* 第70回全国都市問題会議 \*

今年で70回目を迎える全国都市問題会議が10月23,24日に新潟市で開かれ、「新しい都市の振興戦略ー地域資源の活用とグローバル化ー」をテーマに、全国からおよそ1,600人の地方議員や市長などが参加しました（足利市議会からは会派緑風会2名が参加しました）。

第1日目の基調講演では、地域経済活性化成功のポイントとして、1)キーパーソンの存在、2)人材育成、3)明確なビジョン、4)地域資源への気づきと活用、5)ネットワークの形成、を挙げていました。地域資源への気づきについては、地元の人間よりはむしろ、外の人の方がそれに気づくようで、そうした交流が本市にも必要であると感じました。

第2日目のパネルディスカッションでは、地域の成功事例をいくつか紹介していましたが、都市のお金を地方に持ってきたところが成功とされていました。地方に産業が発達していれば自立も可能ですが、そうでない場合は、お金のある都市から稼ぐこと（都市外貨の獲得）などを考えるべきなのかもしれません。

会議全体を通してのキーワードは、「高卒の職場の確保（人口流出防止）」「都市外貨の獲得」「都市との交流、相互連携」「交流ビジネス（観光ビジネスではなく）」「ゆるやかに働く（寝たきりをつくらない）」「ICTを入れた発想」といったところです。特に都市外貨の獲得（都市にあるお金を地方へ環流させるといった考え方）については、12月議会でも本市における提案を何点かしたところです。今後のまちづくりにおいて重要な考え方になると思います。



## ★ 第7回オープンミーティング ★

市民の皆様との直接対話の場として設けた第7回目のオープンミーティングを、12月2日に織姫公民館にて開催しました。今回のテーマは「旧西小学校跡地活用について」で、過日議会に示された市側の活用案を紹介し、その後、皆様と意見交換を行いました。隣接する足利赤十字病院移転後の跡地の活用方法とも連動して考えるべきといった意見などは、議会一般質問の参考にさせていただきました。

## 織原義明のおもな活動(2008年10~12月)

- 10月2日 講演会「私たちの暮らしと地域の安全」(通4丁目自治会館)
- 10月11日 秋の名月を楽しむ夕べ(織姫神社)
- 10月14,15日 建設防災常任委員会行政視察(焼津市、掛川市)
- 10月19日 第46回足利市民総合選手権大会総合開会式(総合運動場)
- 10月20日 全員協議会、広報委員会、建設防災常任委員協議会
- 10月21日 足利市戦没者追悼式(市民会館)
- 10月22日 緑風会会派行政視察(長岡市)
- 10月23,24日 第70回全国都市問題会議(新潟市)
- 10月26日 第1回足利百人一首かるた競技大会(市民武道館)
- 10月31日 第6回自然エネルギー利用総合セミナー(足利工業大学)
- 11月1日 草雲没後110年記念シンポジウム(織姫会館)
- 11月3日 平成20年度足利市民文化賞贈呈式(市民会館)
- 11月9日 第13回足利市民福祉大会(市民プラザ)
- 11月20日 全員協議会、広報委員会、建設防災常任協議会
- 11月21日 議会運営委員会
- 11月22日 「百人一首競技かるた」模範試合(足利学校)
- 11月23日 足利学校「釋奠(せきてん)」、サイエンスアゴラ2008(東京)
- 11月24日 環境教育講演会(市民プラザ)
- 11月27日 第26回足利市建築文化賞表彰式(市民会館)
- 11月28日 議会運営委員会、市議会定例会本会議
- 12月2日 第7回オープンミーティング(織姫会館)
- 12月3日 第一、愛宕台、富田中学校視察
- 12月8日 市議会定例会本会議
- 12月9日 市議会定例会本会議
- 12月10日 市議会定例会本会議にて一般質問
- 12月11日 建設防災常任委員会
- 12月13日 叙勲・褒章受章祝賀式(市民会館)、エコプロダクツ2008(東京)
- 12月18日 議会運営委員会、市議会定例会本会議

※ホームページでは、毎週の活動報告等を随時更新しています。

<http://www.watarase.ne.jp/orihara/>

### <政務調査費の公開>

足利市では市議会議員の調査研究に資するため、必要な経費の一部として議員個人に対し、年間84万円の政務調査費を交付しています。その収支報告書は、情報開示により閲覧が可能です。

4~12月分合計(暫定)

収入 630,000円 - 支出 756,498円 = -126,498円

<内訳>

研究研修費：86,820円、調査旅費：112,160円、資料作成費：0円、人件費：0円

資料購入費：68,015円、広報広聴費：400,986円、事務費：88,517円、その他の経費：0円

暫定ですが、12月までの9ヶ月間の支出額は支給額を上回っている状況です。